

平成24年度 キックオフ 応用動物科学セミナー

パイオニアラウンド翻訳における mRNP リモデリング

佐藤 華江 博士

Post-doctoral Fellow
Department of Genetics
Albert Einstein College of Medicine



- 4月3日(火) 15時～
7号館A棟104/105号室
- 本セミナーは講義としてカウントしません。
したがって、レポートも必要ありません。
- 問い合わせ先：
応用動物科学専攻 細胞生化学研究室
田中 智 准教授
☎ 03-5841-5372
✉ asatoshi@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

セミナーの
概要

真核生物の遺伝子発現過程である転写, キャップ構造の付加, スプライシング, ポリ(A)の付加, mRNA輸送, 翻訳, 分解までに, mRNAには多くの蛋白質が結合し, そして離脱する。mRNAのキャップ構造においては, 核内で CBP80/20ヘテロダイマー (CBC) が結合しているが, mRNAの核外輸送後に解離し, 細胞質で翻訳開始因子eIF4Eと入れ替わる。本セミナーでは, 核内キャップ結合因子CBCから通常の翻訳に必須なeIF4Eへの置換機構に関する研究結果について紹介する。

Sato H and Maquat LE. (2009)
Remodeling of the pioneer translation initiation complex involves translation and the karyopherin importin β .
Genes & Development 23: 2537-2550.